

2010年度 大阪経済法科大学 春学期末試験答案用紙

【問題1】 次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。(70点：5点×14)

現 金 備 品 前 払 金 前 受 金 発 送 費 租 税 公 課
 当 座 預 金 商 品 券 預 り 金 未 収 金 給 交 通 費 料 手 形 売 却 損
 売 掛 金 立 替 金 貸 付 金 備 品 減 価 償 却 累 計 額 旅 費 交 通 費 固 定 資 産 売 却 損
 受 取 手 形 仮 払 金 買 掛 金 引 出 金 支 払 利 息 受 取 利 息
 売 買 目 的 有 価 証 券 未 払 金 支 払 手 形 仕 入 支 払 手 数 料 受 取 利 息

		借方		貸方	
(1)	当店は、山形商店から商品¥140,000を掛けて購入した。なお、引取費¥10,000は現金で支払った。	仕入	150,000	買掛金 現金	140,000 10,000
(2)	当店は、神奈川商店に商品¥240,000を販売し、代金は後日受け取ることにした。なお、当方負担の発送費¥5,000は現金で支払った。	売掛金 発送費	240,000 5,000	売上 現金	240,000 5,000
(3)	青森商店は、宮城商店に商品¥400,000を販売し、代金は同店振り出しの約束手形¥400,000を受け取った。	受取手形	400,000	売上	400,000
(4)	当店は仕入先に対する買掛金 ¥500,000を支払うために、得意先を支払人とする為替手形を振り出し、得意先の引受けを得て仕入先に支払った。	買掛金	500,000	売掛金	500,000
(5)	埼玉商店は、所有手形（茨城商店振り出しの約束手形）¥250,000を取引銀行で割り引き、割引料¥4,000を差し引かれ手取金は当座預金とした。	当座預金 手形売却損	246,000 4,000	受取手形	250,000
(6)	得意先富山商店に対して期間6ヶ月、利息年5%で貸し付けていた貸付金 ¥500,000が本日満期のため利息とともに同店振り出しの小切手で返済を受けた。	現金	512,500	貸付金 受取利息	500,000 12,500
(7)	長野商店は茨城家具商店から事務用として机¥370,000を購入し、代金のうち¥300,000は小切手を振り出して支払い残額は月末に支払うことにした。	備品	370,000	当座預金 未払金	300,000 70,000
(8)	鳥取商店は、山口商店に商品¥250,000を注文し、内金として¥30,000を現金で支払った。	前払金	30,000	現金	30,000
(9)	当店は、千葉商店に商品¥55,000を販売し、代金として当座発行の商品券¥30,000と現金¥25,000を受け取った。	商品券 現金	30,000 25,000	売上	55,000
(10)	当店は、一時所有目的のために高松商事株式会社の株式10株を1株@¥40,000で買い入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、手数料¥2,000は現金で支払った。	売買目的有価証券	402,000	当座預金 現金	400,000 2,000
(11)	従業員の出張にあたり、旅費概算額¥100,000を現金で渡した。	仮払金	100,000	現金	100,000
(12)	今月分の給料¥600,000を支払うにあたり、所得税の源泉徴収税額¥30,000を差し引き、手取金は現金で支払った。	給料	600,000	現金 預り金	570,000 30,000
(13)	営業用店舗兼自宅に対する固定資産税 ¥240,000の納税通知書が送付されてきたため、小切手を振り出して納付した。なお、この税金のうち30%は家計の負担である。	租税公課 引出金	168,000 72,000	当座預金	240,000
(14)	平成×4年1月1日に、備品を ¥200,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この備品は平成×1年1月1日に ¥500,000で取得し、耐用年数は5年、残存価額は取得原価の10%である（減価償却は間接法で処理）。	備品減価償却累計額 未収金 固定資産売却損	270,000 200,000 30,000	備品	500,000

科 目	教員名	学籍番号	氏 名	採点
30750 簿記実践 I	2062 山根 陽一	入学年度 E・L 番		

(裏面使用のときはこの位置を上段にして記入すること)

【問題2】 次の決算整理事項に基づき、精算表を完成しなさい。なお、会計期間は平成22年1月1日から同年12月31日までの1年である。(30点)

【決算整理事項】

- (1) 期末商品棚卸高 ¥4,200
- (2) 貸倒引当金 売掛金残高の2% (差額補充法)
- (3) 備品減価償却費 定額法および間接法を採用
(取得原価 ¥9,000、耐用年数10年、残存価額は取得原価の10%)
- (4) 売買目的有価証券の時価 ¥4,900
- (5) 保険料 ¥360のうち ¥216は10月1日に向こう1年間の支払金額である。
- (6) 利息の未払分 ¥30

精算表
平成22年12月31日

勘定科目	残高試算表		決算整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	14,790						14,790	
売掛金	7,500						7,500	
売買目的有価証券	4,800		100				4,900	
繰越商品	3,600		4,200	3,600			4,200	
備品	9,000						9,000	
買掛金		5,175						5,175
借入金		6,000						6,000
貸倒引当金		90		60				150
備品減価償却累計額		810		810				1,620
資本金		27,000						27,000
売上		46,425				46,425		
仕入	29,310		3,600	4,200	28,710			
給料	15,900				15,900			
支払保険料	360			162	198			
支払利息	240		30		270			
	85,500	85,500						
貸倒引当金繰入			60		60			
減価償却費			810		810			
有価証券評価(益)				100		☆100		
(前払)保険料			162				☆162	
(未払)利息				30				☆30
当期純(利益)					577			577
			8,962	8,962	46,525	46,525	40,552	40,552

配点：5点×6 (☆は、勘定科目と金額が一致して5点)